

[成果情報名]ユウガオのリビングマルチにおける抑草効果と収量性

[要約]ユウガオは雑草により収穫量が減少するが、4月定植のユウガオに、エンバク「ヘイオーツ」をリビングマルチに用いた場合、7月中旬まで抑草効果があり多収となる。

[キーワード]ユウガオ、リビングマルチ、抑草効果、収量

[担当]長崎県農林技術開発センター干拓営農研究部門

[連絡先]（直通）0957-35-1272

[区分]総合・営農（干拓）、野菜

[分類]指導

[作成年度]2014年度

[背景・ねらい]

諫早湾干拓地においてユウガオは野菜生産の端境期となる夏期に収穫できる品目として有望であるが、雑草の発生により収穫量が減少する。そこで、リビングマルチによる抑草効果とユウガオの収量性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. ユウガオは雑草の発生により収穫量が減少する（図1）。
2. 4月定植のユウガオに、エンバク「ヘイオーツ」をリビングマルチに用いた場合、7月中旬まで抑草効果がある（図2）。
3. 収穫量はリビングマルチを用いた場合、慣行より多収となる（図3）。
4. 収穫量の推移はリビングマルチを用いた場合、収穫期初期は慣行と同じ推移となるが、雑草量が多くなる7月以降の収穫量が慣行より多収で推移する（図4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 諫早湾干拓地でのユウガオ栽培の基礎資料とする。
2. リビングマルチは「ヘイオーツ」を2月13日に播種し、5月14日にフレールモア（ニプロ FN-1800）を用い刈り敷きを行なった。そのときの乾物重は704kg/10aであった。
3. ユウガオは N=20kg/10a 1/2 硫安+1/2 鶏ふん 硫安（N21%）、発酵鶏ふんペレット（N3% 分解率70%）3月5日播種、4月8日定植、株間200cm、畝幅150cm、畝1本仕立て、1区15株反復なしで「しもつけしろ」を栽培した。

[具体的データ]

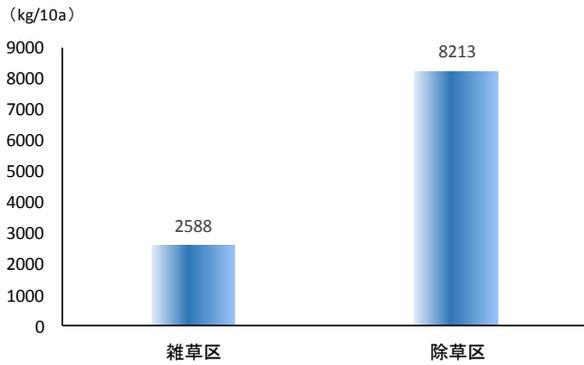


図1 雑草が収量に及ぼす影響(2013年)

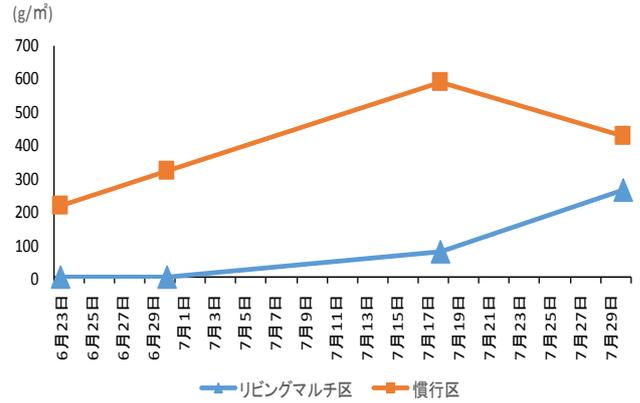


図2 雑草量の推移(乾燥重)(2014年)

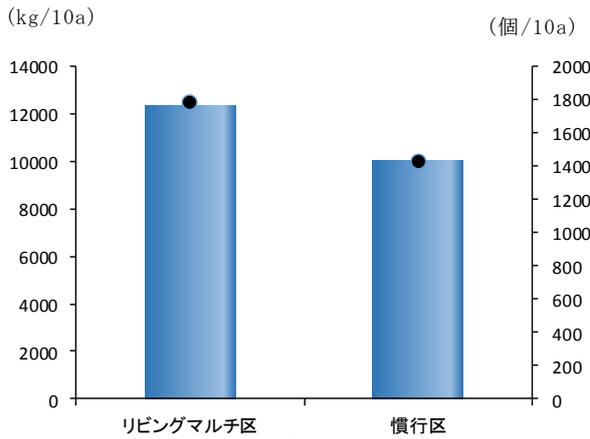


図3 収穫量(2014年)

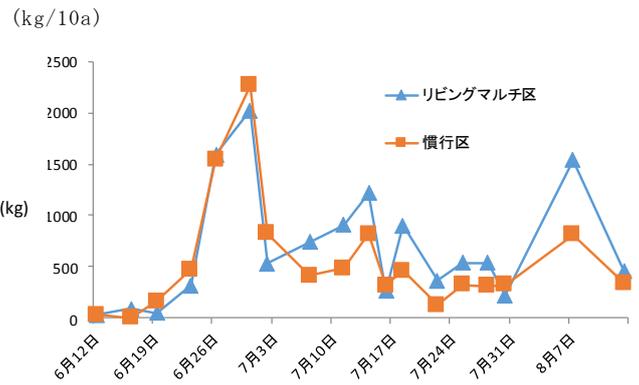


図4 収穫量の推移(2014年)



写真1 リビングマルチ(右)と慣行(左)の雑草の発生状況

[その他]

研究課題名：ながさき加工・業務用野菜の生産技術確立および特性解明、新利活用法の開発(戦略プロ)

予算区分： 県単

研究期間：2013～2014年度

研究担当者：松尾憲一